

学会記事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています。

日本地質学会2016年度 第4回理事会議事録

日時：2017年4月8日（土） 14:00～17:00

会場：北とびあ 901会議室

出席役員：理事(31名)：天野一男 安藤寿男 市川八州夫 大藤 茂 緒方信一 岡田 誠 笠間友博 狩野彰宏 小宮 剛 斎藤 眞 佐々木和彦 澤口 隆 菖蒲幸男 杉田律子 田村嘉之 辻森 樹 (15時半退出) 内藤一樹 中澤 努 仲谷英夫 西 弘嗣 楡井 久 平田大二 星博幸 保柳康一 松田達生 松田博貴 向山 栄 矢島道子 山田泰広 山本高司 渡部芳夫

監事(2名)：藤本光一郎・山本正司

事務局：橋辺菊恵

欠席役員：理事(13名)：有馬 眞 井龍康文 亀尾浩司 川端清司 川辺文久 清川昌一 坂口有人 沢田 健 田村彦彦 竹下 徹 奈良正和 廣木義久 福富幹男 三田村宗樹

*成立要件：理事総数45名の過半数23名 本日の出席者31名(審議事項からは30名)で本理事会は成立。

*議決：出席者の過半数16名

*議長：向山栄理事 副議長：佐々木和彦理事

*開催にあたって書記2名の選出：大藤 茂理事、澤口 隆理事

報告事項

1. 執行理事会報告

・2016年度第7～9回執行理事会議事録の要点が説明された。(斎藤常務理事)
・前回理事会以降の逝去会員の氏名が報告され、黙祷をささげた。(緒方理事)

2. 理事及び委員会等報告

1) 2016年度決算概算報告(西理事)

2016年度収支決算概算が説明された。125周年記念事業支出は特別事業費から独立させ、支出内容が見えるようにした旨、説明があった。

2) 125周年記念事業実行委員会(矢島理事)

125周年記念事業の進捗について資料に基づき報告があった。寄付については現在30団体から寄付をいただいたが個人の寄付は低調である。本日の理事会メンバーからの寄付を契機に、個人会員に更にアピールしたい。記念式典は2018年5月18日(金)「北とびあ」での開催を予定している(会場決定は抽選なので、落選時の第2候補は5/25)。これに伴い総会の日程についても検討し、総会は5月19日とすることで大方の一致を見た。2018年9月の北大で開催される学術大会を記念大会とする。

3) 行事委員会(岡田理事)

2017年学術大会(愛媛大会)の準備状況が報告された。国際シンポジウム「東アジアの古生代古地質学」と同じ名称のトピックがリストにあるのでLOCを確認をする。また、2018年学術大会(札幌大会)の計画が報告された。北大において3日連続で会場が確保できる日程が、9月の場合、9/5(水)～7(金)のみであるため、平日開催の日程となっているが、平日だと大学教員以外の教師層および高校生の参加が難しいため、8月下旬で開催可能な日程は調整できないか、LOCに打診することが要請された。また、巡検数が10コースと多いので減らす方がよいとの意見が出された。

4) 地質学雑誌編集委員会・アイランドアーク編集委員会(中澤理事)

125周年記念特集号の2017年4月から2018年12月の刊行スケジュールが報告された。また、Island Arcの編集業務を外委託したことによる主な変更点について報告された。

5) 地質学雑誌タスクフォース委員会(斎藤常務理事)

地質学雑誌の電子化に関わる会員数および予算の変化を試算しており、いくつかのシミュレーションが示された上で、理事からの意見が募られた。2017年度中に理事会で方針を決めるために、地質学雑誌の電子化について会員にアンケートをとることが必要との認識が確認された。

6) 県の石支援委員会(辻森理事)

現在進めている書籍出版企画に関して、各都道府県の協力者の依頼を進めており、順調に準備は進んでいる旨報告があった。

7) その他

・熊本震災1周年を前にした学会会長声明(案)(松田副会長)

熊本地震から4/14で一年が経過するあたり、熊本地震に関する会長名で声明文を発表する。標題「地質学の知見をもって減災につなげるために 熊本地震から一年を迎えるにあたって」

・企画出版(小宮理事)

子ども夢基金(JST)の助成金が採択され(金額1,000万円)、デジタル教材作成等の準備が進んでいる。

・環境地質部会(田村理事)

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の発生から6年が経過した。具体的な内容は今後検討することになるが、楡井理事が責任者となり、東日本大震災を取りまとめた書籍の出版を計画中である。事業計画にどのように反映させるかを執行理事会で議論する。

審議事項

1. 総会議案の決定(斎藤常務理事)

・選挙規則改正(2015/09/10理事会議決)の確認

「理事の欠員補充に関する選挙規則の改正：2015年9月10日理事会にて議決済み」

を、総会議案として提示し、承認を求めることが提案された。この選挙規則改正を含む第1号議案～第5号議案について、全会一致で異議なく承認された。

2. 2017年度事業計画骨子(渡部会長)

2017年度事業計画骨子が説明・提案され、全会一致で異議なく承認された。

3. 2017年度予算案(西理事、緒方理事)

2017年度予算案が説明された。2017年度予算案の収入合計は89,740,000円と、2016年度予算(83,871,677円)と比較して大幅な増加となっているが、これは、125周年記念事業収入の350万円が含まれており、これはそのまま125周年事業で支出される分であることが説明された。出版事業収入の減額分は、Island Arcの編集業務を2017年2月よりワイリー社へ委託したことにより、これまでワイリー社から学会に支払われていた年間100万円の編集費がなくなったこと、これまでワイリー社から支払われていた購読費のロイヤリティーが8%から10%に引き上げられるが、総額としての収入はこれまでより減額となる。地質学調査研修事業収入は、2017年度から事業実施を中止するため、60万円の減額となっている。ジョルジュ関連費用としては総額でおおよそ200万円を使っている。事業計画骨子にも記載されている通り、2017年度中に学会活動での位置付けと出版形態の再検討結果をとりまとめ、中期的な出版計画の再構築を行うことを執行部で検討する。以上、2017年度予算案および125周年記念事業収支計画案が説明・提案され、全会一致で異議なく承認された。

4. 各賞選考結果(保柳理事)

各賞選考結果委員会から、各賞の候補者および候補論文が推薦され、全会一致で異議なく承認された。なお、受賞理由の文章に関しては、総会までに加筆・修正が加えられる予定。

5. 名誉会員選考結果(山本副会長)

名誉会員推薦委員会から、2017年度名誉会員候補者として、鈴木博之会員・波田重熙会員・大場忠道会員の3人が推薦され、全会一致で異議なく承認された。

6. 学会行事、巡検等における車両の利用について(杉田理事・渡部会長)

日本地質学会として行事を実施する際に、自家用車やレンタカーの使用を制限する「巡検等に使用する車両制限について」(案)が提案され、基本的方向性については全会一致で異議なく承認された。ただし、各支部等からも意見を伺いながら成案を得るよう、執行部に依頼がなされた。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2017年5月12日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長 向山 栄
(以下、理事氏名省略)